

都市河川における水際建築物の視覚的な河川享受性に関する研究

-福岡市 那珂川下流部を事例として-

余語大地 九州大学大学院人間環境学府 黒瀬研究室

1. 研究の概要

都市部において河川用地を活用する動き

■ 2004年 河川専用許可準則の規制緩和

全国19地域で河川区域で、民間事業者による社会実験が行われ、

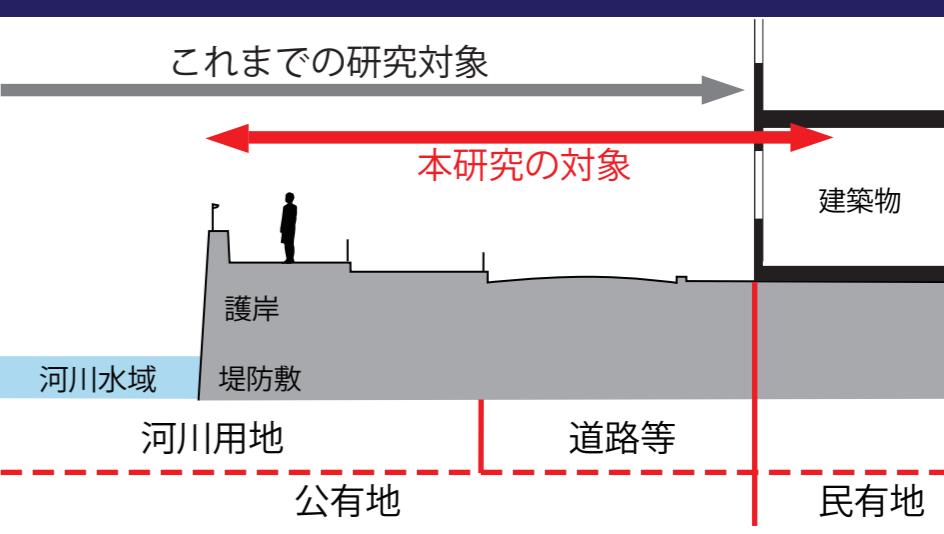
オープンカフェ、売店、バーベキュー場などとして活用

→河川用地での賑わいが向上

民有地での河川に背を向けた建築物の存在

民有地の建築物について視覚的繋がりから、河川と建築の間の関係を明らかにし、河川両岸の空間構造の把握に役立てることを目的とする。

本研究では河川を感じたり、眺めたりするなど、河川に面した立地ならではの利用ができることを、建築物の河川享受性があると定義



2. 水際建築物の属性

分類項目	分類内容	調査方法
用途	住宅、事務所、商業、工業、その他の用途で分類	現地調査
築年	~1965年、'66~'82年、'83~'95年、'96~'10年、'11年~'18年で分類	文献/Web調査
営業時間	昼間(11:00~15:00) 夜間(18:00~23:00)で営業状態を把握	現地調査
河川-建築間の空間	歩道・広場、車道の有無により、裏隣接型、歩道隣接型	現地調査

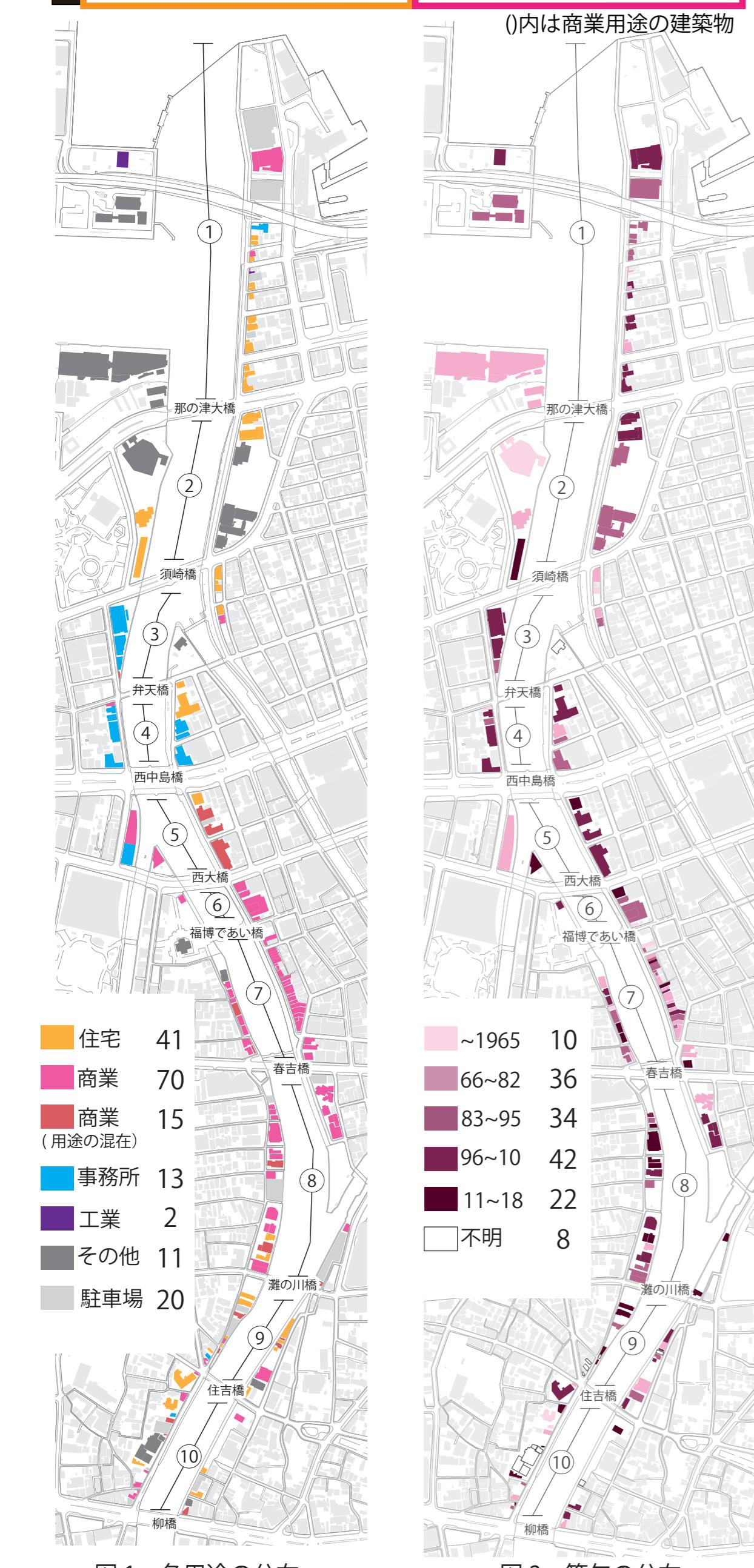
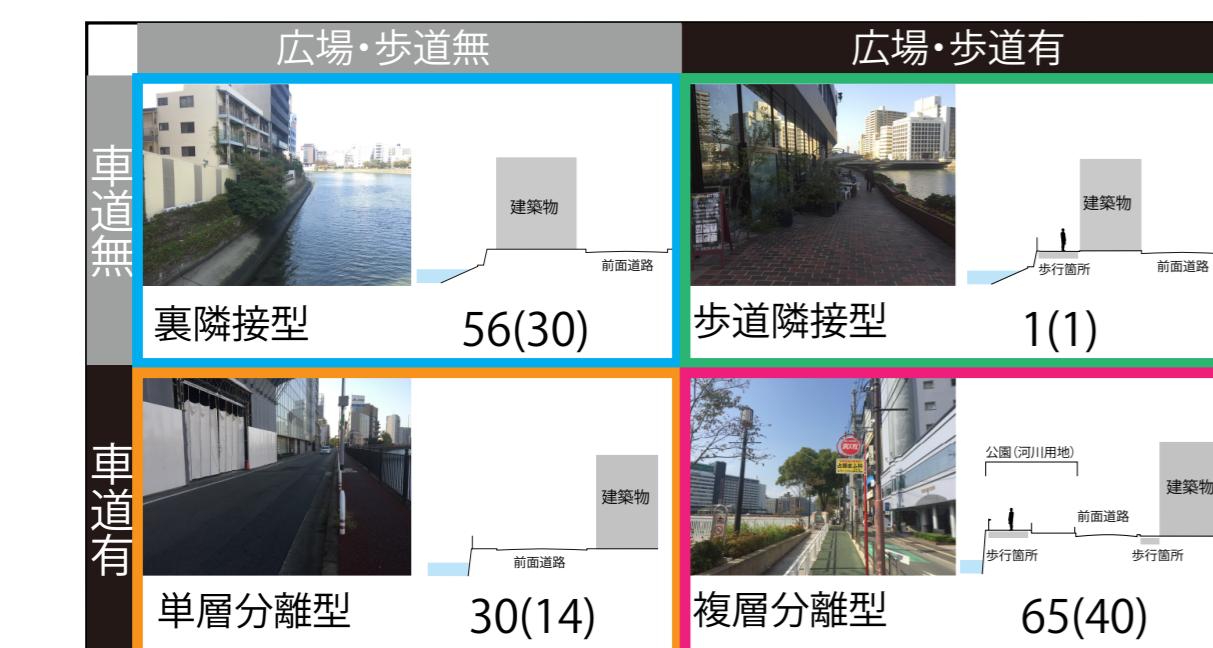
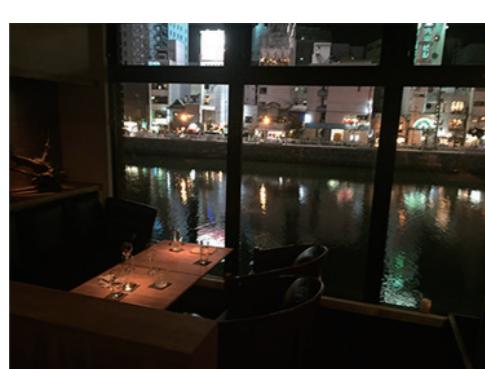


図1 各用途の分布

図2 築年の分布

4. 室内の設えの類型

対象の建築物より15の店舗を選び、室内の設えを調査
平面モデルを作成



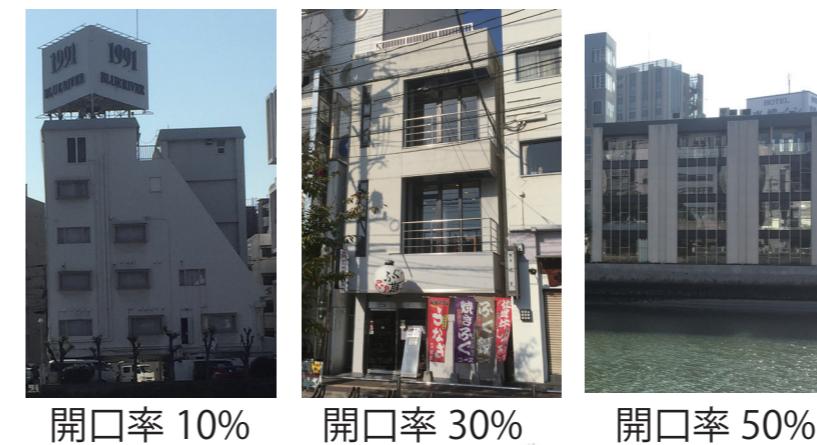
窓側席の差別化	客室の位置			窓側席の差別化
	隣接	一部隣接	分離	
あり	立面 断面 4件	立面 新面 4件	立面 新面 1件	立面 断面 4件
なし	立面 断面 3件	立面 新面 3件	該当なし	立面 断面 0件

窓側席の差別化が見られた店舗

チャージ料金の設定、段差、客席の川への対面配置

3. 建築応答パターンの分析

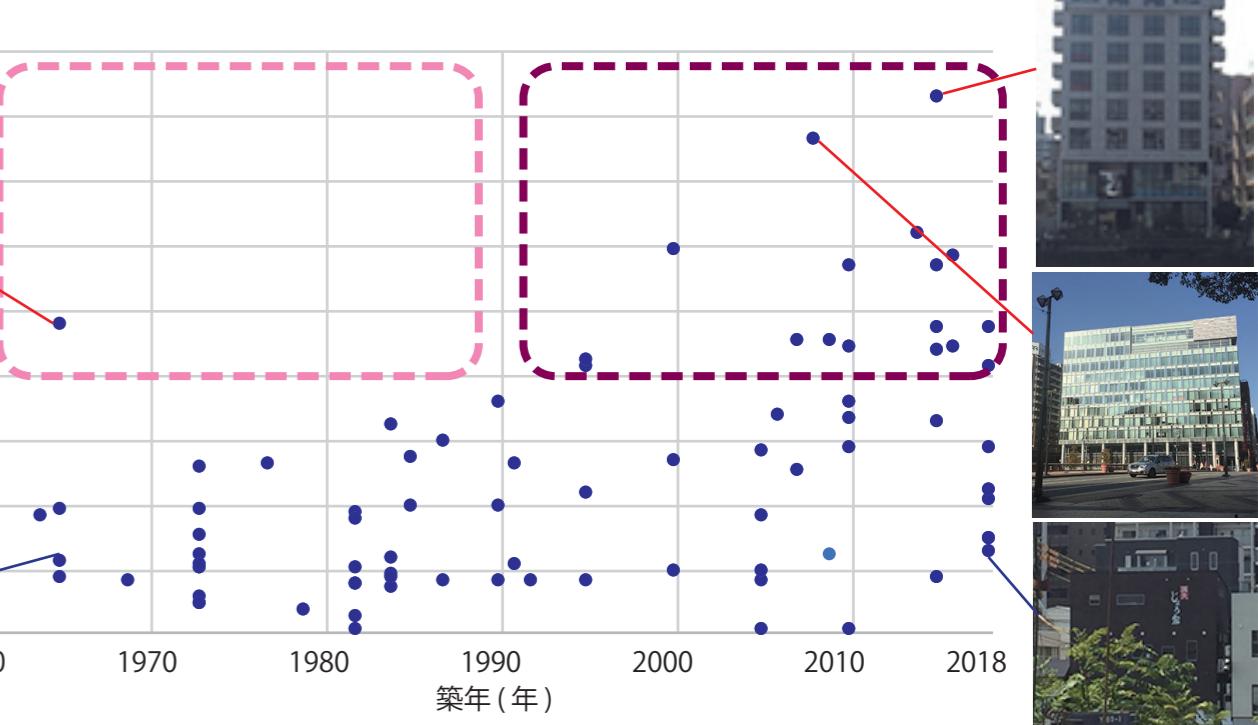
3.1. 開口率



壁面に対する開口部面積の割合

開口率30%以下

屋外広告物や常設の壁により利用が確認できない開口部の存在



3.2. 屋外に出られる空間の有無

客席や喫煙所の設置により、客が直接屋外に出られる空間を持つ建築物を客の利用の意図ありとする

A. 屋外空間無し

高開口率から低開口率まで幅広く分布

B. 客の利用の意図なし

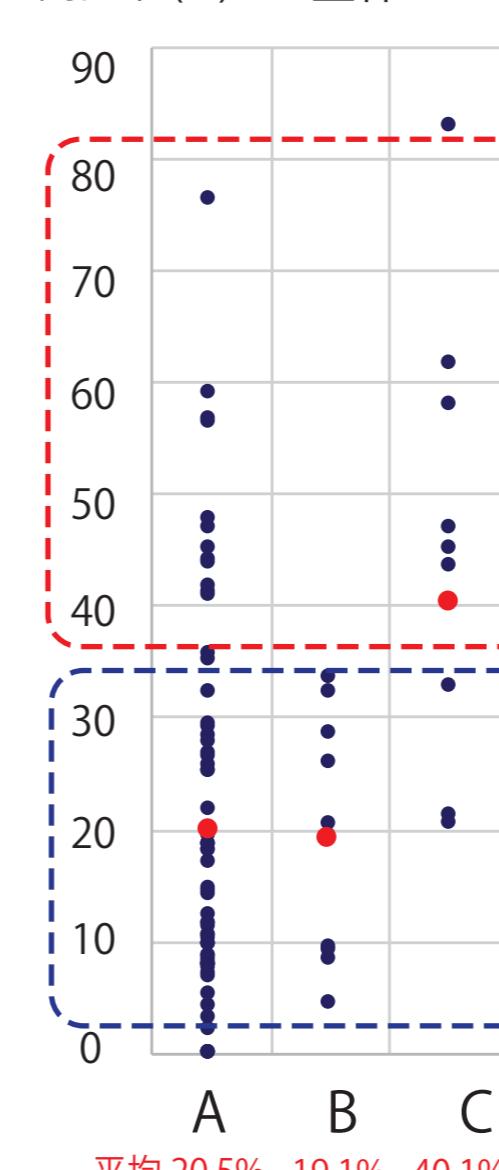
高開口率の建築物は見られない

C. 客席の配置

Bタイプに比べ、高開口率の分布の割合高

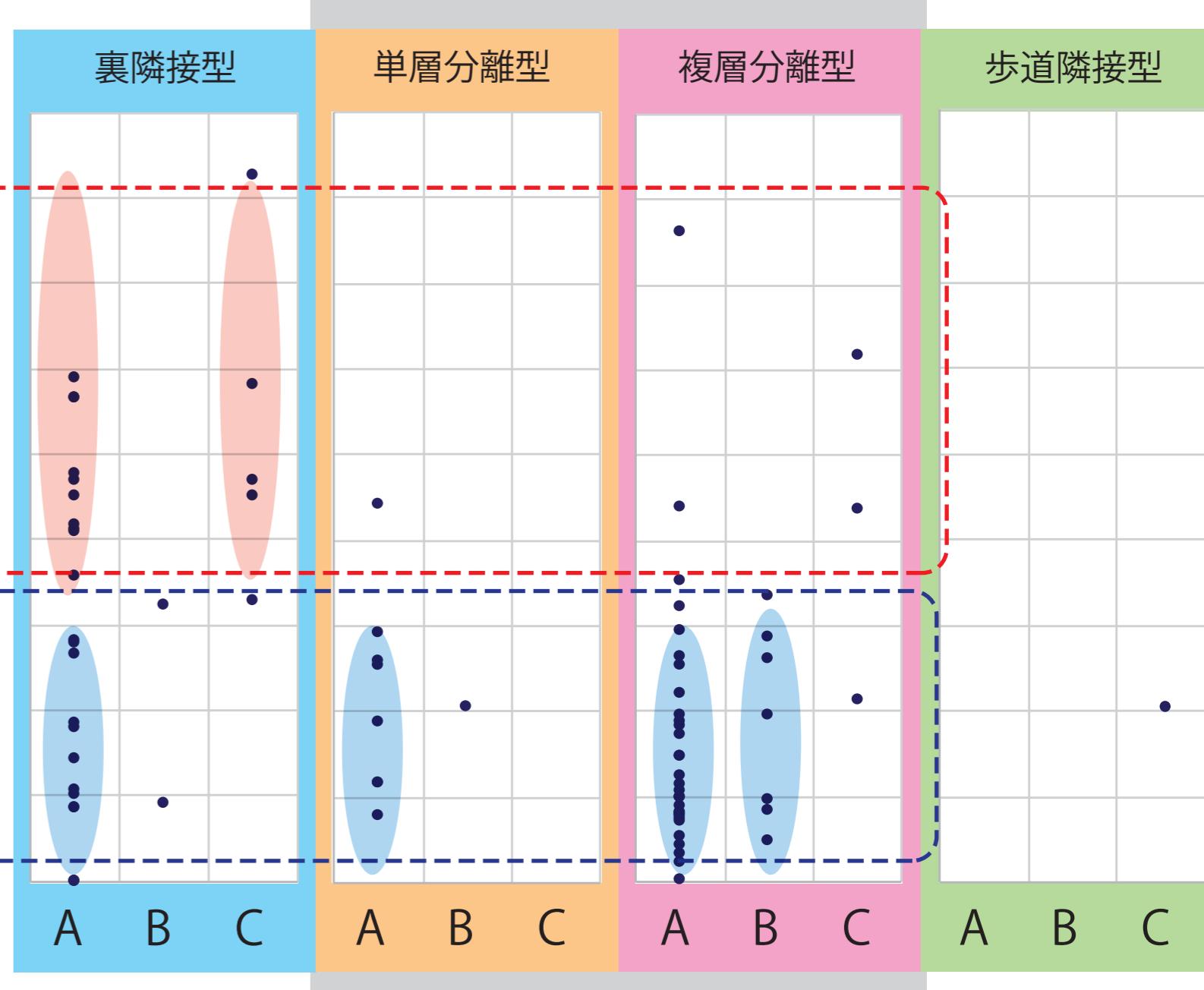
3.3. 建築応答パターンの分析

開口率(%) 全体



低開口率のAタイプ 河川建築間の空間に関係ない分布
Bタイプ 複層分離型に集中
高開口率のCタイプ 裏隣接型に集中

河川との間に車道を持つ



河川享受性が期待されるパターンは
河川との関わりが高い裏隣接型

歩道空間を有する複層分離型、歩道隣接型に立地

5. 結び

- 車道の有無が建築物の河川享受性に影響
- 裏隣接型は河川享受性が高い
- 近年、河川に開いた建築物が増加

裏隣接型は河川との関係性が高い反面、公共性の低い対岸からの景観の構成要素

一括評価が必要

